

伝統の砂型鑄造技術から生まれた製品開発事例

株式会社金森合金 高下 裕子*

■背景と目的

創業300年を超える当社は、伝統的な砂型鑄造技術を継承しながら、時代のニーズに応じた製品開発を行ってきた。近年、環境意識の高まりとSDGsへの取り組みが求められる中、金属精錬技術を活かした「循環型ものづくり」による新たな価値創造に挑戦している。地域の使用済み金属を資源として再生し、伝統工芸の技術と融合させることで、持続可能な社会の実現と地域産業の活性化を目指す。

■内容

1. 循環型ものづくりを訴求する製品開発

当社が継承する生産工程において、現代のニーズに合致する点を訴求しながら、鑄造素材を選択し製品化を行う。

- ・新聞印刷用アルミ版の再精錬による高純度アルミニウムの生成
- ・ハイアットセントリック金沢の使用済みアルミ缶を各種テーブルウェアへ還元（図1）
- ・能登半島地震の災害廃材を活用した大阪・関西万博向けサインスタンドの製作（図2）



図1 アルミ缶ゴミの再生事例



図2 災害アルミゴミの再生事例

2. 体験型ビジネスモデルの展開

- ・砂型鑄造体験プログラムの実施（職人と一緒に鑄物工場内でテーブルウェアを製作）
- ・名入れ刻印体験による顧客参加型の価値創造（大阪・関西万博会場など出張体験の実施）

■成果と今後の展開

循環型ものづくりの取り組みにより、環境負荷の低減と新たな顧客価値の創出を実現した。特に、ハイアットセントリック金沢との協業では、廃棄物処理コストの削減と高付加価値製品への転換を同時に達成し、また大阪・関西万博「Co-Design Challenge 2024」への参画により、災害廃材の新たな活用方法を提案し、全国的な注目を集めている。

今後は、この循環型ビジネスモデルをさらに発展させ、県内外の企業・自治体との連携を深めながら、「金属の生態系」を支える企業として、持続可能な社会の実現に貢献する。

また、体験型プログラムの充実により、伝統工芸の魅力発信と次世代への技術継承にも取り組んでいきたい。

* 取締役 Email: info@kanamori1714.jp
代表者名: 代表取締役 金森 和治
住 所: 〒920-0348 金沢市松村6丁目100番地
TEL 076-267-3003